

第 190 回 目黒競馬場跡のトウルヌソル像、目黒不動の役行者像と野村宗十郎像

筆者：林 久治（記載：令和 4 年 4 月 12 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要な不可欠である。昨年の東京五輪—パラの開催期間には、第 5 波の感染があったが (8/26:25,040 名)、何故か秋になると激減した (12/6:59 名)。これで終焉するかと期待していたが、本年になって第 6 波が到来してしまった (2/4:104,463 名)。

私は第 3 回目の予防接種を 1 月 28 日に受けることが出来た。2 月 11 日には、接種から 2 週間が経過した。そこで、私は 2 月 12 日に自宅から近場での銅像探索を再開した。それらの探索記を [185 回の記事/f](#) から [188 回の記事/f](#) までの記事に記載した。（それぞれの記事は、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。）

[前回の記事/f](#) では、目黒区円融寺の笹崎タケシ像、目黒区五百羅漢寺の松雲元慶像と不退法尊者像の探索記を記載した。目黒区では、前回の探索で見そびれた銅像が残っていたので、4 月 9 日に再訪し、目黒競馬場跡のトウルヌソル像、目黒不動（瀧泉寺）の銅造役行者倚像と野村宗十郎像とを探索した。なお、野村像は [1\) のサイト/](#) に収録されているが、他の 2 像は収録されていない。本稿はそれらの探索記である。なお、本稿では資料からの引用を **緑文字** で、私の注釈や意見は **青文字** で記載する。

（2）目黒競馬場跡のトウルヌソル像

次ページの図 1 上に、目黒競馬場跡（図 1 上の①地点）と目黒不動（図 1 上の③地点）の周辺地図を示す。なお、前回探索した五百羅漢寺は図 1 上の②地点である。私は 4 月 9 日の朝、前回と同様に、JR 目黒駅西口から東急バスの大岡山小学校前行き（黒 01 系統）に乗車し、「元競馬場前」で下車した。前回は、本バス停から目黒駅側を探索したが、トウルヌソル像を発見することが出来なかった。今回は本バス停から目黒駅とは逆側を探索した。その結果、「元競馬場前」バス停の直ぐ近くの南側歩道（図 1 上の①地点）で、本像を見つめることが出来た。本像の全景を図 1 下に示す。

（本文は、3 ページに続く。）



図1. 上：目黒競馬場跡と目黒不動の周辺地図、本図は[3\)のサイト](#)/より借用。
 ①：目黒競馬場跡、②：五百羅漢寺、③：目黒不動。下：トウルヌソル像全景。



図2.

上：トウルヌソル像、

中：台座正面の題字

下：台座側面のプレート

図2上にトウルヌソル像を示す。図2中に台座正面の題字を示す。それには「目黒競馬場跡」と書かれていた。図2下に台座側面のプレートを示す。それには「トウルヌソル像 第1, 5, 6, 8, 9, 12, 回日本ダービー優勝馬の父 制作者 故池田勇八 1928年 鑄造者 西村義男 1983年」と書かれていた。

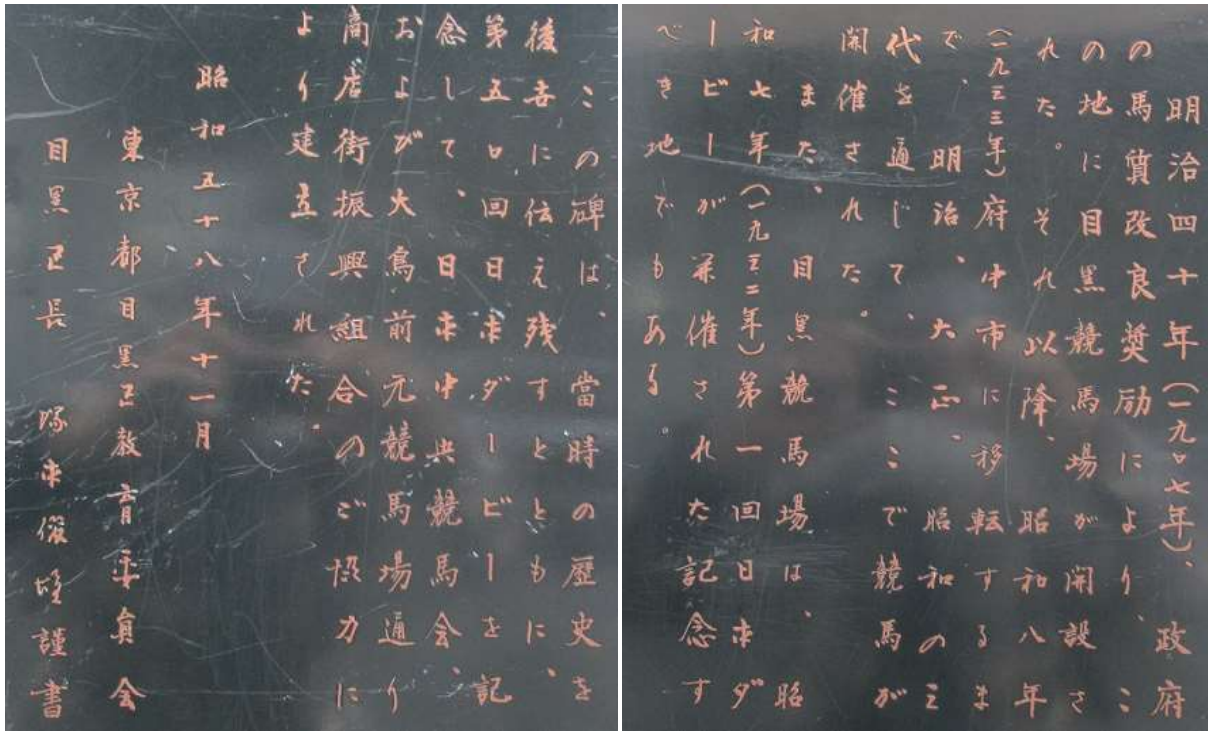


図3. 本像題字の下に貼付された碑文

図3には、本像題字の下に貼付された碑文を示す。それには、次のように書かれていた。

明治四十年（1907年）、政府の馬質改良奨励により、この地に目黒競馬場が開設された。それ以降、昭和八年（1933年）府中市に移転するまで、明治、大正、昭和の三代を通じて、ここで競馬が開催された。

また、目黒競馬場は、昭和七年（1932年）第一回日本ダービーが開催された記念すべき地でもある。

この碑は、当時の歴史を饒舌に伝え残すとともに、第50回日本ダービーを記念して、日本中央競馬会、および大鳥前元競馬場通り商店街振興組合のご協力により建立された。

昭和五十八年十一月 東京都目黒区教育委員会 目黒区長 塚本俊雄

4) のサイト/1 とウィキペディアによれば、塚本俊雄区長の略歴は次の通りである。

塚本 俊雄（つかもと としお、1912年3月29日 - 1990年9月1日）は、日本の政治家。元東京都目黒区長（4期：1975/04/27 - 1990/09/01）。区長在職中に死亡。

5) のサイト/1 によれば、本像作者の池田勇八氏の略歴は次の通りである。

池田勇八（1885/08/28 - 1963/03/31）香川県綾歌郡の牧畜業の家に生まれた。1903年3月琴平工芸学校を卒業して、9月上京、東京美術学校彫刻選科に入学した。同窓に朝倉文夫がいた。官展の重鎮として、“馬の勇八”の異名を天下にとどろかせた。

6) のサイト/b とウィキペディアによれば、トウルヌソル号の略歴は次の通りである。

トウルヌソル（Tournesol、1922 - 1946.08）は、昭和初期（1930年代から1940年代）の日本を代表するサラブレッド種牡馬である。祖父バヤルドはゲイクルセイダーとゲインズバラの2頭のイギリス三冠馬の父で、1917年と1918年にイギリスの種牡馬チャンピオン

になった。このうちゲインズバラは1915年にイギリスで三冠を達成して種牡馬になると、1925年から1927年までイギリスの種牡馬ランキング4位になった。

トウルヌソルはこの時期の活躍馬で、1926年にプリンセスオブウェールズステークスなどに勝ち、1927年のアスコットゴールドカップ4着のあと脚部故障により引退すると、約10万円で購買され、日本に輸入されて千葉県三里塚の下総御料牧場に繋養された。これだけの血統背景を持つ馬を、この時代の日本に輸入し、日本産サラブレッドの礎とすることができたのは、当時の競馬や馬産のみならず、後世の日本の馬畜産業にとっても最大級の幸運であったと言われている。第1回（ワカタカ号）、第5回（トクマサ号）、第6回（ヒサトモ号）、第8回（クモハタ号）、第9回（イエリュウ号）、第12回（クリフジ号）の日本ダービー優勝馬の父です。

なお、目黒競馬場跡の紹介は[7\) のサイト/1](#)や[8\) のサイト/4](#)（動画：目黒競馬場跡のカーブを走る）が優れている。以上の資料などにより、トウルヌソル像の略歴は次の通りである。

トウルヌソル号（目黒区）

設置場所：東京都目黒区下目黒4-11 目黒通り「元競馬場前」バス停横

建立時期：1983年11月 当地で開催された第1回日本ダービーの50周年記念

制作者：池田勇八（1885-1963：官展の重鎮として、“馬の勇八”の異名を天下にとどろかせた。）氏、1928年の作品。

設置経緯：トウルヌソル号（Tournesol、1922-1946.08）は英国生まれ、昭和初期（1930年代から1940年代）の日本を代表するサラブレッド種牡馬である。第1, 5, 6, 8, 9, 12回日本ダービー優勝馬の父。明治四十年（1907年）、政府の馬質改良奨励により、この地に目黒競馬場が開設された。それ以降、昭和八年（1933年）府中市に移転するまで、明治、大正、昭和の三代を通じて、ここで競馬が開催された。また、目黒競馬場は、昭和七年（1932年）第一回日本ダービーが開催された記念すべき地でもある。この碑は、当時の歴史を饒舌に伝え残すとともに、第50回日本ダービーを記念して、日本中央競馬会、および大鳥前元競馬場通り商店街振興組合のご協力により建立された。

（3）目黒不動（瀧泉寺）の銅造役行者倚像

私は、トウルヌソル像（図1上の①地点）の探索後、目黒通りを大鳥神社まで歩いて、山手通りに入り、前回探索した五百羅漢寺（図1上の②地点）に到着した。そこから、細道を歩いて、目黒不動の仁王門（図1上の③地点）に着いた。目黒不動（瀧泉寺）の境内図を次ページの図4上に示す。

目黒不動は余りにも有名なので、その紹介記事は多い。そこで、本稿では目黒不動の紹介は敢えてしない。紹介記事としては、[10\) のサイト/4](#)や[10b\) のサイト/7](#)や[10c\) のサイト/5](#)が優れており、素敵な写真が多数掲載されており、参詣した気分になる。私は、銅造役行者倚像の検索に直行した。ここで、倚像（いぞう）とは、台座などに腰掛けて、両足を下にたらしめている姿の仏像である。

図4上の境内図で、女坂の途中に「**神変大菩薩**」がある（図4上の①地点）。[11\) のサイト/8](#)には、次のような記載がある。

1799年(寛政11)には、朝廷から役行者に対して神変大菩薩という諡号が贈られた。

神変大菩薩（銅造役行者倚像）の写真を、図4下に示す。

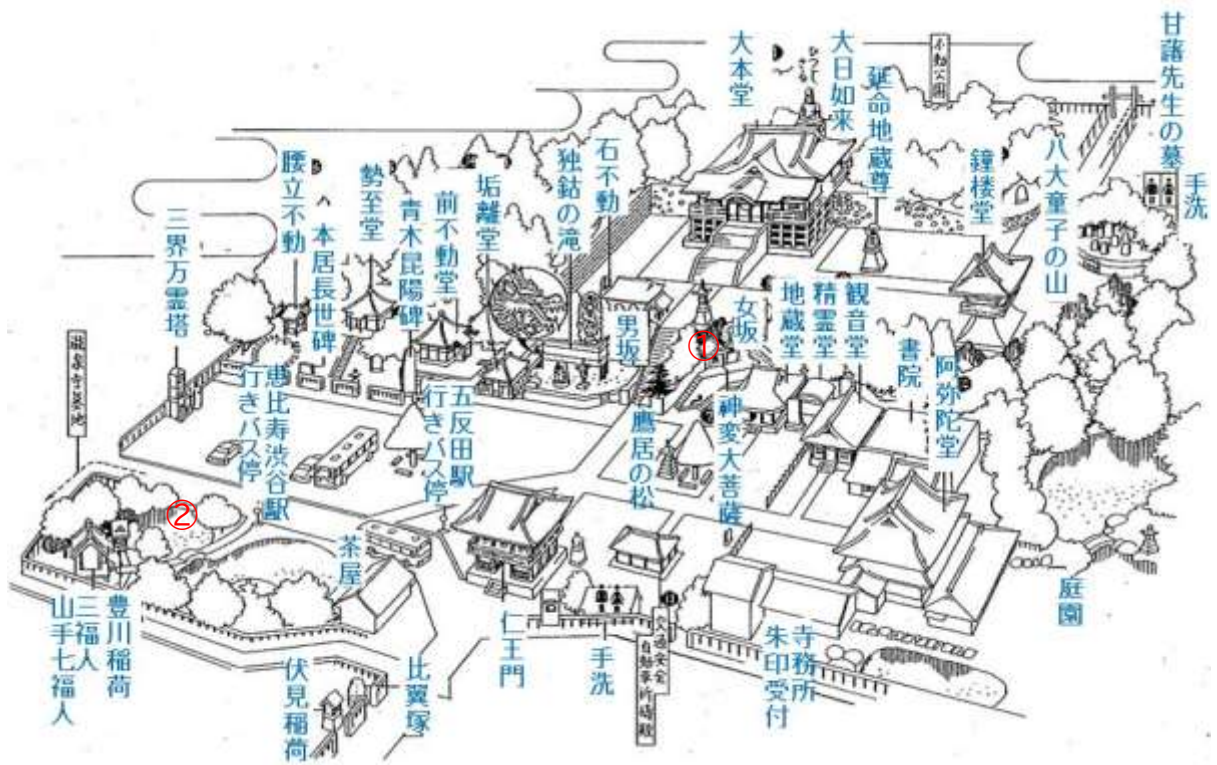


図4.

上：目黒不動（瀧泉寺）の境内図、

本図は、[9\)のサイト/5](#)より借用。

①：役の行者倚像

②：野村宗十郎像

下：銅造役の行者倚像



図5. 「銅造役の行者倚像」の説明板

図4下に示した役の行者倚像の横に、「銅造役の行者倚像」と書かれた説明板があった。その写真を図5に示す。それには、次のように書かれていた。

銅造役の行者倚像

区指定文化財（昭和59年3月31日指定） 下目黒3-20-26

役の行者（役小角ともいう）は奈良時代の山岳修行者で、修験道の祖として崇拝されている人物です。この像は寛政8年（1796）の作で、総高142.2cm、座高92.7cmです。やや痩せ形の神秘的な面相、均整のとれた体軀や手足の表情、法衣や袈裟の衣文のしわなどもとても巧みで江戸時代の銅造彫刻として優れた遺品の一つです。

表面は黒光りしており、これは鑄工の間でガラス銅と称される銅色です。頭巾を山高にかぶり、木の葉の肩衣をかけ、右手には錫杖を、左手には卷子を持っています。

また、像の腹部、胸部、腕部等に刻銘があり、そこから願主の名や、神田に住んでいた鑄工太田駿河守藤原正義の制作であることがわかります。

平成21年3月 目黒区教育委員会

[12\) のサイト/1](#)には、次のような記載がある。

太田駿河守藤原正義は神田鍋町（千代田区神田鍛冶町3丁目）に住居した鑄物師です。太田駿河守を称する鑄物師には正義、正義、政義などがありますが、何れも音が通じているこ

と、宝永5年(1708)から天保5年(1834)まで28件の作例が知られることから、数代にわたって活躍したものと推定されます。

ウィキペディア(役小角)には、次のような記載がある。

役小角(えんのおづぬ / えんのおづの / えんのおつの、舒明天皇6年(634年)伝 - 大宝元年6月7日(701年7月16日)伝)は、飛鳥時代の呪術者。役行者(えんのぎょうじゃ)、役優婆塞(えんのうばそく)などとも呼ばれている。実在の人物だが、人物像は後世の伝説も大きく、前鬼と後鬼を弟子にしたといわれる。天河大弁財天社や大峯山龍泉寺など多くの修験道の霊場でも役小角・役行者を開祖としていたり、修行の地としたという伝承がある。

以上の資料などにより、役の行者像の概要は次の通りです。

銅造役行者倚像(目黒区)

設置場所: 東京都目黒区下目黒3-20-26 目黒不動尊女坂

建立時期: 1796年

制作者: 太田駿河守藤原正義(神田に住んでいた鋳工)

設置経緯: 役行者(634伝-701年7月16日伝)は、飛鳥時代の呪術者。役小角(えんのおづぬ)、役優婆塞(えんのうばそく)などとも呼ばれている。実在の人物だが、人物像は後世の伝説も大きい。天河大弁財天社や大峯山龍泉寺など多くの修験道の霊場でも役小角・役行者を開祖としていたり、修行の地としたという伝承がある。1799年(寛政11)には、朝廷から役行者に対して「神変大菩薩」という諡号が贈られた。

「銅造役の行者倚像」の説明板: 7ページに記載。

(4) 目黒不動(瀧泉寺)の野村宗十郎像

日本の銅像探偵団([1\)のサイト/](#))の「目黒区欄」には、野村宗十郎像が収録されている。しかし、そこには本像の説明が記載されていないので、目黒不動に参詣した機会に、本像も探索した。本像は多くの記事で紹介されているが、「設置場所は仁王門傍」と書かれているものが殆どである。一方、[13\)のサイト/1](#)には、「仁王門の傍らにあったが、バス停脇に移設された」と書かれている。



図6. バス停脇に設置された野村宗十郎像(図4上の②地点)

役の行者像を探索した後、私は野村像を仁王門付近で探したが、矢張りそこには無かった。仁王門から少し離れたバス停方向を見ると、図6に示すように「渋谷駅東口」行きのバス停の先（図4上の②地点）に胸像があることを発見した。その写真を図7に示す。丁度、太陽が銅像の頭の後にあり、最悪の逆光条件であった。



図7. 野村宗十郎像の近接写真

本像の台座正面には、次ページの図8に示す銘文が貼付されていた。その文面は [13\) のサイト/1](#) に記載されているので、それを拝借して以下に示す。

君諱宗十郎安政四年五月四日出于長崎薩摩屋敷服部氏出嗣堅邦■少入新街新塾受活版術于昌造本木翁明治六年入東京大学予備門■病退十二年任大蔵省銀行局員尋轉主計局二十二年辭官入築地活版製造所四十年奉社長君之在社也晨起夜寐看社務遊■技嘗創九波■活字問諳衆■発大阪博覧会九波因行乎巫昉于弘也大正二年官賜藍綬褒章賞馬受又慨活字常體紛乳如決決諸衆家出又省略點劃肌論■可讀不可讀其■力■商於活版術也經任国語調査会委員焉十二年■關東地震災起活版所歸烏有氏日夜勤勉■厭復興胡■假年俄然病歿大正十四年四月二十三日也特旨叙正七位 文学博士遠藤隆吉記

昭和五年六月上浣 堀 進二作像 亀田雲鵬 書

台座背面にあるプレートの文面も [13\) のサイト/1](#) に記載されているので、それを拝借して以下に示す。

昭和五年六月（昭和5年6月）建設委員 石丸祐正 島連太郎 大澤長橘
築石者 ■田保治郎



14) のサイト/1)によれば、本像制作者の堀進二の略歴は次の通りである。

堀進二（1890-1978）は東京生まれ。1906年太平洋画会研究所で新海竹太郎に師事。同研究所で中原悌二郎、戸張孤雁らと知り合い、新宿中村屋を中心にした青年芸術家グループに参加。1911年太平洋画会会員、1920年帝展審査員となり、1948年日展評議員。この間、1928-46年東京帝大講師、1931年東京工大講師、1951年千葉工大教授、1957年太平洋美術学校校長を歴任した。代表作に「H老人の肖像」「肖像」「老人」（以上文展特選）、他に「老婆」「浜尾総長像」「足を洗う女」など。

野村宗十郎氏の経歴に関しては、15) のサイト/E や 16) のサイト/E が詳しい。本稿では、17) のサイト/1) に記載された略歴を借用する。なお、野村氏は東京築地活版製造所の第五代社長であったが、日本の活版印刷史については 18) のサイト/E が詳しい。以上の資料などにより、野村像の概要は次の通りです。（なお、本像が目黒不動に設置された理由は不明である。）

野村宗十郎像（目黒区）

設置場所：東京都目黒区下目黒 3-20-26 目黒不動尊仁王門前 「渋谷駅東口」行きバス停横

建立時期：1930年6月

制作者：堀進二（1890-1978、東京出身、代表作に浜尾総長像など）

設置経緯：野村宗十郎（1857-1925）は、長崎に生まれる。父の従兄野村全吉の養子となったが、全吉は函館戦争で幕府軍艦朝陽搭乗士官として戦死。本木昌造の新街私塾に入り英

語を学んだ。1872年大阪に出て開成学校に入学、さらに東京英語学校及び大学予備門に学んだ。1879年大蔵省銀行局に入局。1889年東京築地活版製造所に入社。1907年第5代社長に就任。和文ポイント活字を創製し、これが新聞印刷で採用されるなど、印刷技術の革新に寄与した。

参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：<https://r100tokyo.com/curiosity/city-walk/211101/>
- 4) のサイト：<https://poliele.blog.jp/archives/32158901.html>
- 5) のサイト：<https://www.tobunken.go.jp/materials/bukko/9030.html>
- 6) のサイト：
<https://meguro.kokosil.net/ja/place/00001c0000000000000200000059246b>
- 7) のサイト：<https://dailyportalz.jp/kiji/141212165831>
- 8) のサイト：<https://www.youtube.com/watch?v=ElEvyXp0044>
- 9) のサイト：<https://jptrp.com/a/10335>
- 10) のサイト：
<http://www.goo.ne.jp> 目黒不動堂（瀧泉寺＝目黒区下目黒）江戸名所図会めぐり - ランドマーク探しIII
([goo.ne.jp](http://www.goo.ne.jp))
- 10b) のサイト：<https://shiteki-tokyo.kuni-naka.com/377>
- 10c) のサイト：
<http://www.hatenablog.com> 目黒不動尊（瀧泉寺）・2020年7月23日 - 俺のめし (hatenablog.com)
- 11) のサイト：<http://www.kotobank.jp> 神変大菩薩とは - コトバンク (kotobank.jp)
- 12) のサイト：
<https://www.city.taito.lg.jp/gakushu/shogaigakushu/shakaikyoiku/bunkazai/yuukeibunkazai/kougeihin/doushou-yuinenji.html>
- 13) のサイト：<http://pccwm336.xsrv.jp/sub24.html>
- 14) のサイト：
<https://kotobank.jp/word/%E5%A0%80%20%E9%80%B2%E4%BA%8C-1654561>
- 15) のサイト：
<http://www.hirano-tomiji.jp> 東京築地活版製造所 第五代社長 野村宗十郎 - 平野富二 (hirano-tomiji.jp)
- 16) のサイト：
<http://www.robundo.com/robundo/notesontypography/?tag=%E9%87%8E%E6%9D%91%E5%AE%97%E5%8D%81%E9%83%8E>
- 17) のサイト：http://soutairoku.com/07_douzou/25_no/nomura_soujuurou.html

18) のサイト :

<http://www.robundo.com/robundo/column/?tag=%E9%87%8E%E6%9D%91%E5%AE%97%E5%8D%81%E9%83%8E>